さらしな学わくわく出前講座
2021年11月10日 坂城中学校

日本遺産「月の都 千曲」

# 「月の都」とは何か

日本人の心を映してきた月と歌

さらしなルネサンス

大谷善邦

## 鏡台山から上がる月①（増田恵さん撮影）

## 鏡台山から上がる月②

## 鏡台山から上がる月③　一度に四つの月

## 月の都は昼間も美しい

金井慎吾さん撮影

澤川泰弘さん撮影

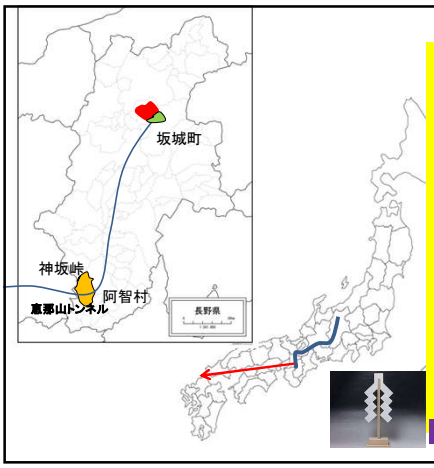
大谷善邦撮影

千曲建設事務所撮影

「この味がいいね と君が言ったから七月六日はサラダ記念日
俳句 万智

制服は未来のサイズ入学のどの子もどの子も未来着ている

ちはやぶる神のみ坂に幣奉り
斎ふ命は母父がため
埴科郡の神人部子忍男（みわひとべのこおしお） 万葉集




防人

## 「わが心慰めかねつ」の歌 なぜ、人びとを魅了したのか

- 人間共通のどうにも慰められないかなしみ＝老い、死、一方でかなしみは超越的なもの、その一つに神とつながれる機会 感情
- 表現の巧みさ＝「慰めかねつ」の身もだえ感「さらしな」と「姨捨」という対立するイメージの言葉の統合→心の真実が美しい調べに
- さらしなの里＝なかなか訪ねられない地方＝月を見て深く思いをめぐらせる精神性 膨らむイメージ→かなしみを表現するた最適地に＝大和物語 世阿弥の「姨捨」、芭蕉の「俳句

## わが心慰めかねつ さらしなや 姨捨山にてる月を見て

日本最初の勅撰和歌集「古今和歌集」に載る 詠み人不詳

- 平安時代 950年ごろ
- 姨捨説話の起源＝大和物語
- 室町時代 1400年代
- 世阿弥の謡曲 能楽「姨捨

能楽は世界文化遺産

- 江戸時代 1688年
- 松尾芭蕉のさらしな の旅＝「更科紀行

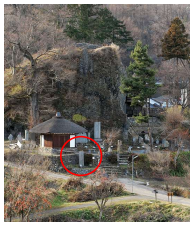
俳句や 姨ひとりなく月の友

## 有名人が詠んだ さらしなの月の和歌 俳句

さらしなや雄島の月もよそならんただ伏見江の秋の夕ぐれ （豊臣秀吉

曇るとも照るとも同じ秋の夜の其の名は四方にさらしなの月 （伊達政宗

俳句や 姨ひとりなく月の友 （松尾芭蕉



十六夜もまだ更科の郡かな （芭蕉 十六夜観月殿

一夜さはわれさらしなよさらしなよ （小林一茶

## 歌いたくなるときって？

- 心が動くとき
  ⇒発見、感動、悲しみ、孤独
- 心が動いたとき
  ⇒人に伝えたくなる
  ⇒手軽で身近な表現手段＝短歌
- 歌のちから
  ⇒自分の思いを伝える手段
  情報、思いの共有手段
  イメージの展開、成長

## 心（思い）を映し出す短歌の数々

- 望の日に出でにし月の高々に君をいませて何をか思はむ（万葉集、3006）
- お月さん今日はとっても豆電球まどかな心が点り始める（島本ちひろ）
- 現れた月の面に見ているのあなたの姿恋するわたし（大谷善邦）
- 弟の眠る柩の窓開けて確かめ居りぬ吾が残生を（沓掛喜久男　20年11月5日朝日新聞）
- 君の声聞こえなかった風のせい聞き返せない君の目のせい（川端いず美、35回全国短歌フォーラムin塩尻、最優秀賞＝小島ゆかり選）
- こころよりうどんを食えばあぶらげの甘く煮たるは慈悲のごとしも（小池光）
- 手を伸ばし線香花火を楽しめるこの児宣らに戦あらすな（島田暉こん）
- 死ぬ力とうになければ丸ごとの三十八キロ父の身洗う（佐藤孝子）
- この墓に夫がゐるとは思はねど何処にもゐないのでここに来る（藤原成子）
- 絞首刑受けるとの時折れるてふ喉仏の骨つい触れてをり（元死刑囚「響野湾子、信毎10月7日）
- 中庭で魚が跳ねた朝読書全校四百七十五人（佐藤彩湖）
- 四月二十三日土曜午後六時二十八分　最初の光（島本ちひろ）

## 「月の都」とは何か

・「月の名所」は各地にあるが、「月の都」を自他ともに認める所はなかなかない
・「芸術の都パリ」という言葉あるように、都は大きな空間、まち。月の都→月が特に美しいまち
・歴史的には＝心（思い）を映し出す鏡としての月。歌にたくさん詠まれ、月に寄せてきた日本人の心（思い）が分かるところ

⇓月をそんなに見なくなった現代の「月の都」とは？

日本遺産になって始まった「月の都」の解釈、読み解き
　月への関心の寄せ方はさまざま＝移住先（かぐや姫の月の都）、宇宙飛行士油井亀美也さんの講演会、始まった大学生や若年層のアイデア出し

私の場合＝「月の都」となるのに大きな役割を担ったのが心を映し出す短歌。57577にまとまれば短歌。思いを込めやすい表現手段。なんか不思議、なんか面白い、なんかすごい→詠む題材の多様化。さらしなの里の魅力を短歌で表現（さらしな堂HP「さらしなの歌」）

永久とは七十年なるかぐらきし憲法九条祈るごと読む
沓掛喜久男
（２０１６年朝日歌壇賞

坂城駅近くで「山根屋書店」経営

「週刊上田」2018年から

電車つく時刻となれば立読みの生徒ら一斉に駆け出してゆく

秋雨に立読みながき少年よ迎えはあるのか傘はあるのか

ご清聴ありがとうございました。

番外編
坂城という地名を短歌にしました　大谷善邦

さかき＝榊　榊のお供え物

さかきという町の名子忍男万葉に
詠みたる幣に由来はあるか

木を城となす先人は喜べり工作機器の一大城下と

かつてなるさらしなの里村上を含む坂城はおとなり以上

坂城の子学び学んでほぐすときさらしなの月お役に立てたか